

基本介護技術-食事介助-

レベル2①

注意点・声かけ例等

(1) 食事前の準備

- ① 声を掛けたり肩を叩いたりするなどして、利用者の覚醒状態を確認する。
- ② とろみつけが必要とされる利用者の食事に、とろみがついていることを確認する。
- ③ 禁忌食の確認をする。
- ④ 飲み込むことができる食べ物の形態かどうかを確認する。
- ⑤ 食べやすい座位の位置や体幹の傾きはなにか等座位の安定を確認し、必要があれば声かけ又は介助する。
- ⑥ 顎が引けている状態で食事が取れるように姿勢の保持ができるよう声かけ又は介助する。

意識レベルの低い方、ウトウトされている方には「〇〇さん、お食事になりますよ」等と声をかけたり、肩をポンポンと叩く等して覚醒状態を確認してください

判断基準：食事カード

判断基準：食事カード

判断基準：食事カード

声掛け例「〇〇さん、すこし傾いていまずので直させていただいても宜しいでしょうか？」等

声掛け例「〇〇さん、すこし顎が上がって危ぶないので、直させていただいても宜しいでしょうか？」

(2) 食事介助

- ① 食事の献立や中身を利用者に説明する等食欲がわくように声かけを行なう。(すべての利用者に)
- ② 利用者の食べたいものを聞きながら介助する。(食事介助が必要な方に)
- ③ 利用者と同じ目線の高さで介助し、しっかり咀嚼して飲み込んだことを確認してから次の食事を口に運ぶ。
- ④ 自力での摂食を促したり、食べやすいよう食器を移動する。必要時には介助する。
- ⑤ 食事の量や水分量を記録する。

注意点・声かけ例等

声掛け例「(配膳時)今日は〇〇と〇〇です、どうぞ温かいうちにお召し上がりください」

声掛け例「(食事中)あら!この〇〇とても美味しい、〇〇さん召し上がりましたか?」

声掛け例「〇〇さん、次は何を召し上がりますか?」「〇〇さん、次は〇〇はいかがですか?」

その方が食べるスピードやスプーンを口に運ぶスピードや角度をイメージしながら、それに合わせるように介助します。

基本はどなたにもお箸やスプーンを持ってもらい食べやすいように配膳します。声をかけても中々食べ始めていただけない、途中で止めてしまった場合に介助します。

記録用紙：個人日常記録表

食後、個人日常記録表に何をどの位召し上がったのか、食事中の様子などを記録します。

(3) 口腔ケア

- ① 出来る利用者には、義歯の着脱、自分で磨ける部分のブラッシング、その後のうがいを促す。
- ② 義歯の着脱の際、利用者に着脱を理解してもらい、口を大きく開けて口腔内に傷をつけないよう配慮しながら、無理なく行う。
- ③ スポンジブラシやガーゼ等を用いた清拭は、利用者に不快感を与えないよう速やかに行う。
- ④ 歯磨きや清拭の後、口腔内を確認し、磨き残り、歯茎の腫れ、出血等がないか確認する。異常があった場合は記録する。

注意点・声かけ例等

声掛け例：「〇〇さん、もし宜しければご自身で入れ歯を外して頂けますか？」
「では、歯磨きをお願いいたします」
「最後にうがいをしていただけますか？」
「もう一度お願いいたします」

声掛け例：「〇〇さん、歯を磨きますので入れ歯を外させていただいても宜しいでしょうか？」
「すこし口を大きく開けていただけますか？」
※入れ歯を外す時は、下の入れ歯から。前歯部分を持ち奥を持ち上げるように外す。

記録用紙：個人日常記録表